

陶芸を始めて13年。良くも飽きずに来たものだ。友人の一ちゃんに一作目を貰っていただいた。今思えば恥ずかしい作品を。それでもその時は「よく出来た。」と満足し、何時も眺めて楽しんでいたものである。当時、所属していた芦屋の陶芸部では、美術展出品が流行し、私の先生諸氏が北九州新人陶芸展で次々受賞。羨ましく思っていたのを思い出す。吉永さん、堀さん、白幡さん。皆さんどうしてるかな～！

芦屋から静浜に転勤、一ヶ月かけて探して、自分に向いた穴窯の有る陶芸教室に。その先生から「岡本君は生活用品か、美術品どちらをこれから作るの！」と聞かれ戸惑った。先生は静岡県の陶芸家として活躍されていた。芦屋時代の自慢の作品を見て貰った時「岡本さんのものは幼稚園、私のものは大学生。」と言われたのを、今でも鮮明に思い出す。「岡本さん、頭でっかちに成らなきゃ！」と美術全集をまず読むように！と貸しても頂いた。



会社の玄関に畏れ多くも！

その後、桧町に。運良くそこに電気窯が、川出先生にも恵まれ、作品作りが早く上手で極めて参考に。また、東京都の美術展出品し入賞する実力の持ち主だった。そのころから密かに自分も！と思うように。しかし、個展とか、美術展入選に拘り出したきっかけは、次に勤務した岐阜時代に、未生流（庵家）のお花の先生に会ってからである。「岡本さん、この位の大きいのを作って下さい！（立って床から手で大きさを示して。）」と頼まれ、高さ50センチほどの焼き締めの花器を差し上げた。



お花の先生に差し上げたもの風

先生は、岐阜市の生け花の全流派が出品する生け花展にも、岡本さんの花器尽くしで生けるから！と、私が手元に持っていたものまで借りて行って、連花を生けられた。また、お友達に「私の作品はこの先生が作ってくれたのよ。」と自慢され恐縮もした。その生け花展に招待された折りのこと。「岡本さん、皆からどんな“作家さんの作品”と聞かれ“有名な人よ”と言っているけど、どこか美術展に出品されて、入賞してくれないと困る！！」と、これには正直言って参った。



#### 第50回 所沢市美術展 奨励賞 中央の木の葉皿

岐阜を最後に定年に。その記念に、所沢市街のダイエー横の「うつわの店 せら」で初めての個展をした。初めてでもあり、自分の気に入った作品全部を見て欲しくて、多く並べ過ぎたが、多くの人に見に来て頂き、大事そうに5000円も出して買ってくれる人も現れ、成功だった。売上の四割を店が、残りは手元に、しかし、現職中に作ったものでもあり、全額3万円ほどを市に寄付した。展示会はその後、所沢三菱信託銀行で2回、陶芸仲間の作陶展を2回、池田やギャラリーでのフリーマーケットにプロに混じって初参加、第一回メンズクラブ美術展を市役所市民ギャラリーで企画し出品、山口公民館で作品展示等を行った。自分が作ったものが評価され、皆さんから見えていただくのは本当に楽しかった。



生き物ふれあいセンター

桧町に勤務していたころ、OBの会の「つばさ会」が毎年美術展を開いており、現役の陶芸部の一員として自分も出品。「陶芸やっているの、良いもの出していたね。」と褒められ、満更でもなかった記憶がある。女房は絵が好きで、私は、絵がからっきし駄目だったこともあり、自分が作った皿や花器の絵付けは女房にやって貰っていた。ある時、「貴方、市の美術展が有るので出して見たら！」と勧められ、3年前、市の美術展に第一回目の出品。それから、勤労者文化展、一昨年からは県の美術展にも出品した。初めての受賞は、昨年勤労者文化展県知事賞受賞、次は今年の県展入選、そして今回「木の葉枝付き組皿」が市美術展で奨励賞を受賞。 2001,10,21 OS



椋の枝に付いた葉を焼き付けた大皿

(木の葉の焼付けは幻の技法と言われて来た。)

追記 (16. 4. 7)

県展受賞が嬉しくて、書き留めて置きたくなり、この雑文をしたためたものと思う。

その後、市の美術展の会員に推挙されたり、美術連盟賞も受賞させて貰ったり、自分としては偶然良いものが焼け、幸運だったと思っている。

また、陶芸教室で使われている全国版陶芸雑誌「陶遊」の取材を受け、特集で「木の葉の焼成要領」が表紙にも載り、掲載されたことは身に余る光栄であった。



奨励賞受賞作品が光栄にも雑誌に！ 感謝。